

TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

日本の海事工学に関する博物館について(その6):
九州・沖縄地方

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 庄司, 邦昭 メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/608

日本の海事工学に関する博物館について（その6） －九州、沖縄地方－

庄 司 邦 昭

On the Museums on Marine Engineering in Japan (Part 6) －Kyushu, Okinawa－

Kuniaki Shoji

Abstract

It is important issue to research on the museums by collectiong data about marine engineering. Author researched data of foreign countries from 1989 to 1996 and those are already reported. In Japan he has already reported on the museums in Hokkaido, Tohoku, Kanto, Chubu, Kinki, Chugoku and Shikoku area. In this paper author collected the museums which concerned marine engineering in Kyushu and Okinawa district in Japan. He visited 8 museums and collected 49 museums in this paper.

1. 緒言

前報⁽¹⁾³⁾にも示すとおり世界各地に保存されている船舶関係資料について実態を調査することは、海事工学の発展にとって重要なことであると考えられる。

著者は以前に1989年から1996年にわたり、諸外国における調査結果を文献調査と現地調査によって纏めてきた^{(1)~(7)}。さらにヨーロッパの船の博物館については完全とはいえないが集大成することができた⁽⁸⁾。またその後、1997年から日本における船舶関係資料について調査を始めた^{(9)~(13)}。本報告はその第6報として九州地方、沖縄地方における、海事資料について調査したので以下に報告する。

今回調査した地域は著者の生活する地域から遠方なため、訪問する機会が少ないので、調査結果もそれほど多くない。しかし、ここで示したものの以外にも潜在的にはかなりの数の海事資料をもつ博物館が存在すると思われる。

2. 現地調査結果

(1) 能古博物館（福岡市、福岡県）

博多駅から地下鉄で姪浜終点まで19分、そこから歩いて20分、能古島渡船場へ12時15分の能古島行きフェリー「フラワーのこ」に乗ると所要時間10分で能古島の船着き場に到着する。そこから徒歩10分で能古博物館だが、敷地の中へ入ってからが散策路になっていて歩くのに気持がいい。訪問当時はボトルシップなどの展示のために多くの和船模型が収蔵庫に収められていた。事務局長の菊池氏は親切にそれらも見せてくれた。展示された模型はザ・ロープ九州の作品展示が多い。



写真1 能古博物館

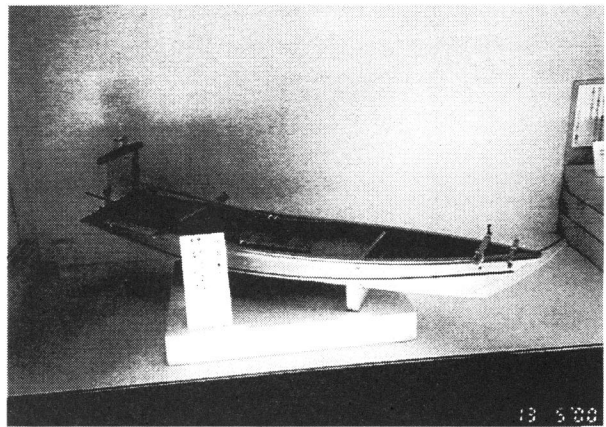


写真2 中取船（なかとりせん）模型

〈データ〉

名 称：能古博物館

英 名：Noko Museum

所 在 地：〒819-0012 福岡市西区能古552-2

交 通：国鉄博多駅から地下鉄にて姪浜より徒歩20分、姪浜渡船場よりフェリーにて能古渡船場下船徒歩5分

電 話：092-883-2887

ファクシミリ：092-883-2881

ホームページ：<http://www.try-net.or.jp/~noko>

Eメール：noko@try-net.or.jp

所 属：財団法人亀陽文庫

沿 革：1989年（平成元年）7月20日亀陽文庫能古博物館として当地に移転開館

開館時間：09：30～17：00（入館は16：30まで）

休 館 日：12月1日～2月末日

入 館 料：大人400円、中高生200円

写真撮影：可（本館所蔵の展示について）

印 刷 物：（財）亀陽文庫 能古博物館（無料パンフレット）

展 示：○權（船を漕ぐ道具）

現在まで能古島に残っていた權で能古島に寄港した廻船「国豊丸」のものといわれている。長さ3.95m、幅0.19m

○和船の大工道具

○筑前五ヶ浦廻船（一千石積み弁財船）1/8模型

市指定技術保存者、西区西ノ浦の松田又一氏製作

長さ4.2m、幅1.6m

○中取船（なかとりせん）模型

模型積荷を港から沖待の本船に運んだり、本船から荷揚げするときに使用された。

○弁財船1/35模型

長さ0.90m、幅0.45m、高さ0.80m（17～19世紀）

訪 問 日：2000年5月13日（土曜日）

(2) 直方市石炭記念館（直方市、福岡県）

鹿児島県本線の折尾から筑豊本線に乗り換えて約30分、ディーゼルカーは「直方（のおがた）」駅へ到着する。線路に沿って飯塚方面へ向かい、線路を跨ぐ三番目の橋を渡るとすぐに直方市石炭記念館の入口がある。この記念館と船の博物館を結びつけるものは、ただ一隻の模型船だけである。江戸時代から明治、大正時代まで筑豊炭田の石炭を積んで芦屋や洞海湾へ運んだ川船「川髹（かわひらた）」の模型がここに展示されている。

「髹」という名は、日本古代の川船として古事記に「比羅伝（ひらで）」、905～927年に作成された延喜式に「比良太」とあり、これが平田船、平太船となったようである。筑豊地方ではこの船を特に「五平太（ごへいた）」、「五平太船」とも呼ぶが、これは藩主雇入れの平太（ひらた）を特に御平太（おんひらた）と尊称しているうちに五平太と書くようになったという説と、石炭の発見者五平太の名に由来するという説がある。しかし1753年（宝暦3年）に黒田藩が幕府に提出した堀川開削の上申書には高瀬船という川船の一般的名称を用いており、川髹、五平太船の名はみられない。この堀川を維持するために各船から通船料約30文を取ったが、その記録には川髹の文字がみられるようなので、川髹と呼ばれるようになったのは堀川運河の完成以後と思われる。

展示されている模型船は長さ4丈3尺（13m）、幅8尺（2.4m）、深さ1.9尺（0.58m）、積載量7000斤（4.2ton）の遠賀川下流域で使われていたものの6分の1模型である。この他、上流域で使われていた長さ2丈1～4尺（6～7m）、幅6尺（1.8m）、深さ1.9尺（0.58m）、積載量3500斤（2.1ton）のもの、後になり建造された1万斤（6ton）以上の積載量をもつ大型のもの、嘉麻川、穂波川の上流で使われた「極」と呼ばれた長さ2.5～3mの小型のものも含め川髹または五平太と総称されている。遠賀川、堀川、曲川、江川を上下する川髹は最盛期には8000隻を超え、1886年（明治19年）1月には筑豊髹業組合をつくり、事務所を若松においた。

1910年（明治43年）8月に炭鉱経営者で組織された筑豊石炭工業組合の直方会議所として建てられた本館の2階に、模型船はおかれている。船の構造は浅い川を航行するため喫水を浅くし、また船底を平らにして中央横断面は台形を逆さにした形状になっている。浅瀬を通過するときは船体がしなるようにつくられているようだ。

川髹の模型船は、直方市石炭記念館のほかに、中間市歴史民俗資料館、折尾駅の鹿児島本線博多方面行ホームなどで見ることができる。また実物は県指定有形民俗文化財となっている県立折尾高等学校に保存されたものと、芦屋町中央公民館に保存されたもの、髹船の最後の船大工といわれた中西吉兵衛氏に1976年（昭和51年）に製作を依頼し若松市民会館に保存されたものがある。

直方市石炭記念館は4119㎡の敷地面積のなかに本館、別館、石炭化学館などの建物がある。新しく建てられた別館には重量2tonの日本一の石炭の塊が置かれている。屋外には三井田川炭鉱から移設された「伊田の立坑やぐら」、「C11型蒸気機関車」、「セム1型第一号石炭車」などが展示されている。周辺は公園の緑に囲まれて環境も良い。

なお最近の新聞で「伊田の立坑やぐら」が取り壊されることが新聞に載っていた。



写真3 直方市石炭記念館



写真4 川髹模型

〈データ〉

名 称：直方市石炭記念館

英 名：——

所 在 地：822 福岡県直方市大字直方692-4

電 話：09492-5-2243

交 通：国鉄筑豊本線直方駅下車、徒歩10分（多賀神社横）

所 属：直方市

沿 革：1971年（昭和46年）7月開館

開館時間：9：00～17：00（入館は16：30まで）

休 館 日：月曜日、祝日、第3日曜日、12月29日～1月3日

入 館 料：大人80円、中学生高校生50円、小学生30円

写真撮影：可

出 版 物：無料パンフレット

展 示：○川船（6分の1模型）

芦屋町、中西吉兵衛市製作

参考文献：○樋口秀雄、加藤有次監修：父と子の博物館、富士書店、p.319（1976年7月30日第1刷）

○考古学ライブラリー編集部編：博物館・資料館案内Ⅱ、ニューサイエンス社

考古学ライブラリー20、p.97（1984年1月20日初版発行）

○北九州市の文化財、北九州市教育委員会、p.40（1990年3月発行）

○サンケイカラー百科、第74年（1980年（昭和55年）10月30日）

（1992年2月14日（金）現在）

(3) 中間市歴史民俗資料館（中間市、福岡県）

筑豊線の中間駅から駅前道の道を線路と直角に伸びるふれあい大通りを歩いていくと右側に中間市歴史民俗資料館が見えてくる。この一区画には中央公民館、体育文化センター、市立病院などの公共施設もある。

ここには直方の石炭記念館と同じ、石炭を運ぶ川船の川船が展示されている。模型は比較的新しくつくられたようで、大変に綺麗だった。また水門の模型も展示され、当時の河川交通の重要性を知ることができる。

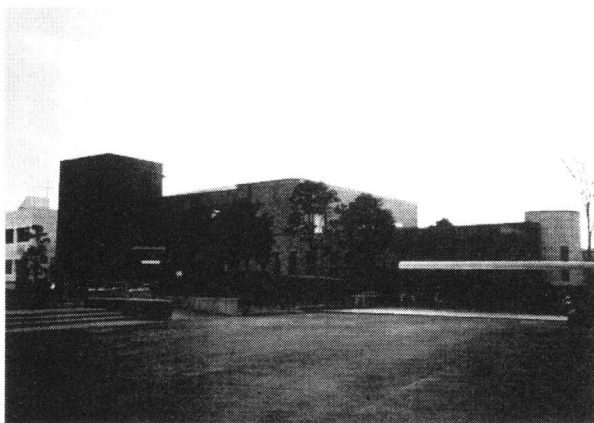


写真5 中間市崎市民俗資料館

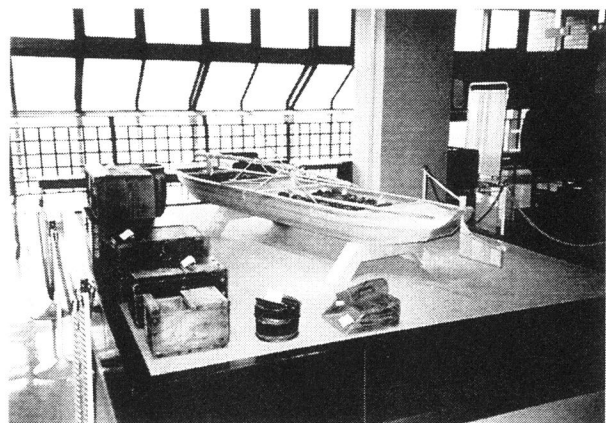


写真6 川船模型

〈データ〉

名 称：中間市歴史民俗資料館

英 名：——

所在地：809 中間市大字中間5876番地の1

電話：093-245-4665

交通：国鉄筑豊本線中間駅下車徒歩10分

所属：中間市

開館時間：10：00～18：00（入館は17：30まで）

休館日：月曜日、祝日（月曜日のときは翌日）、12月29日～1月3日

入館料：無料

写真撮影：可

出版物：中間市歴史民俗資料館（無料パンフレット）

展示：○川舩1/4模型

堀川が開通した文化元年（1804年）以降はそれまで遠賀川の本流に全面的に依存していた上納米、大豆や焚石をはじめとする諸物資の輸送は徐々に堀川による舟運に移行していった。特に後の石炭輸送では主力となった。遠賀川水系による水運には舩（ひらた）が用いられた。舩は古くは「平駄」または「平良太」と呼ばれたが、比較的水深の浅い川の航行に適するように喫水を浅くして多量の積荷ができるように船底を広く平らにした。舩は藩政時代には五平太あるいは吾郎太などと呼ばれたこともある。舩の大きさは水深、川幅などによって制約されるが長さは13m～15mくらいである。材料は杉が用いられた積載量は約6トン余りが平均だった。遠賀川水系における舩の数は最盛時7000とも9000ともいわれているが鉄道（筑豊線）の開通によって急速に姿を消していった。

○塗り取り

○堀川通船料入れ

○船用おひつ、船金庫、船箆筒

○唐戸水門模型

（1992年2月現在）

(4) 長崎オランダ村海事博物館（西彼町、長崎県）

長崎オランダ村へは佐世保線の早岐（はいき）駅から特急バスで行くことができる。特急バスは長崎駅からも出ている。もちろん飛行機で長崎空港へ着けば高速船で大村湾内を空港からオランダ村へ行くルート、博多からも平戸を経由してジェットフォイル『ビートル』で行くルートなどがある。

長崎オランダ村は近年脚光を浴びている観光地だが、その中に海事博物館がつくられている。17世紀頃の日本とオランダの交流がこの村のテーマになっているので、海事博物館でもオランダ船の模型が展示されている。

この博物館には模型船として『プリンスウィレム』、『バクビア』、『ヨハンナマリア』など17～19世紀のオランダの外洋帆船と、ボッター、ブイエルなどオランダ沿岸で使われていた独特な形状の模型船が展示されている。航海計測用具の説明には年号が書かれているが展示されている複製の製造年を示しているのだろうか。

この博物館の特徴は、『プリンスウィレム』の模型船を眺めた後で目の前に浮かぶ実物の『プリンスウィレム』に乗れることである。復元船ではあるが実物としての迫力は十分に感じられ、甲板に立つとその舷弧（sheer）の大きさにより、ただ浮かんでいるだけで揺れてもいないのに気分が少し悪くなるほどである。さらに肌で当時の航海の様子を味わいたければ『大航海体験館』にはいろいろ。映像に音、風そしてさらに動揺が加わり、あたかも『デリーフデ』に乗船し航海しているかのような気分を満喫できる。その他、咸臨丸や観光丸の模型が海洋歴史博物館にあり、復元された実物と対比して見ることができる。

オランダ村博物館では1990年3月11日から1991年3月11日まで『オランダ国立海事博物館展』が開かれていて、模型船や船の絵画を見ることができた。しかしその後は『エッシャー展』に変わっていた。

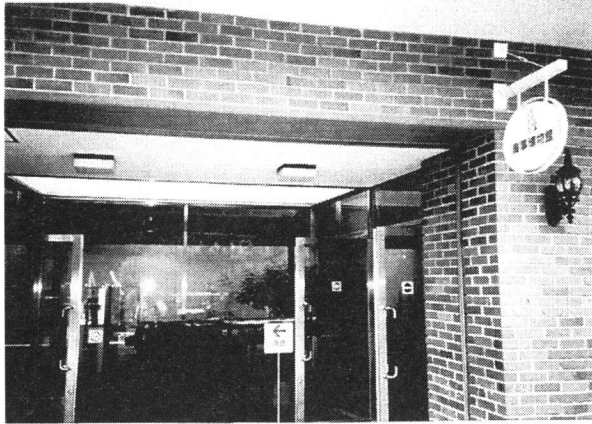


写真7 長崎オランダ村海事博物館

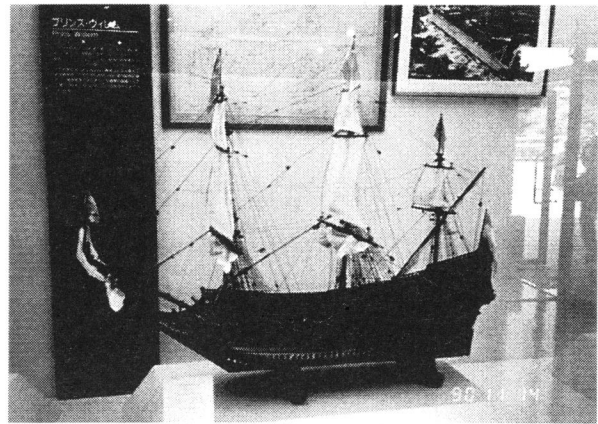


写真8 プリンスウィレム模型

〈データ〉

名 称：長崎オランダ村海事博物館
 英 名：Nagasaki Holland Village Maritime Museum
 所 在 地：88133 長崎県西彼杵郡西彼町
 電 話：0959-27-0080
 交 通：長崎駅よりオランダ村行バス約1時間
 早岐駅よりオランダ村行バス約30分
 開 館 年：1983年
 入館時間：9：00～19：00（12月～3月の平日は17：00まで、7月20日～9月は20：00まで）
 休 館 日：無休
 入 館 料：大人2570円、小人1030円（長崎オランダ村入場料として）
 写真撮影：可

印 刷 物：○長崎オランダ村ガイドブック

○オランダ村とプリンス・ウィレム

展 示：〈模型船〉

○「De Liefde（デリーフデ）」同型船

○「Prins Willem（プリンスウィレム）」

17世紀最大のオランダ東インド会社の船、排水量2000トン、全長73.5m、全幅14.5m

○「Batavia（バタビア）」、1780年頃建造、全長40m、全幅8m

○「Irene（イレーヌ）」、1806年建造、排水量383トン、全長45m

○ダッチフリゲート、1900年頃建造

○「Marinnus（マリヌス）」、1910年頃建造

○「Johanna Maria（ヨハンナマリア）」

オランダ王国の海軍練習船として1870年建造、全長約60m、全幅約12m

○提督用ヨット、1600年頃建造

○Botter（ボッター）、オランダで使用されていた平底帆船の一種

○「Jong Marinus（ヨンガマリヌス）」

1800年頃ミデルハルニスで建造、排水量60トン、全長19m、全幅4.7m

○Boeier（ブイエル）、内陸水路用平底型小型客船

〈航海計測用具〉

- ドライコンパス、櫛製箱入り船舶用羅針儀（1770年頃）
- クロススタッフ、黒檀複製、天測用具（16世紀）
- クロノメータ、船内で使用する基準時計、天測により船の経度を知るための精密なもの（1880年）
- 八分儀（1770年）
- 二層六分儀（1880年）
- <その他>
- 「Prins Willem（プリンスウィレム）」復元船
- 「咸臨丸」復元船
- 「観光丸」復元船
- 海洋歴史博物館
 - 「咸臨丸」1/50模型
（1850年6月オランダのキンデルダイク、スミット造船所で起工、全長49.7m、全幅7.9m、排水量630トン）
 - 「新観光丸」1/50模型
（1987年オランダのハウステン、フェロルメ造船所で起工、全長65.8m、全幅14.5m、深さ5.80m、メインマスト高さ35.90m、排水量784トン）
 - 「新咸臨丸」模型
（1989年5月オランダのザイトホラント州ハーディンクスヴェルデギーゼンダム市メヴェーデ造船所で起工、全長66.0m、全幅10.0m、排水量1050トン）
- オランダ村博物館
- ボルセレインミュージアム
- オランダ民俗博物館
- 大航海体験館
（1990年11月14日、1991年8月28日現在）

(5) グラバー園（長崎市、長崎県）

グラバー邸の一角はグラバー園として由緒ある洋館が移築され整備された。園内には国指定重要文化財の旧グラバー邸、旧リンガー邸、旧オルト邸とともに旧三菱第二ドックハウスがある。この建物は1896年（明治29年）に三菱重工長崎造船所第二ドックのそばに建てられ、船員の休憩と宿泊のための施設として利用された。明治初期建築の典型的な様式をもっている。1972年（昭和47年）に長崎造船所より長崎市が寄贈を受け現在地に移築し復元された。建物内には三菱重工業長崎造船所と長崎港に関係した船舶の資料が展示されている。長崎独特のボートレース『ペーロン』の模型も展示されている。この船の模型は長崎市歴史民俗資料館にもあるし、実物は長崎駅構内でも見ることができる。江戸時代には端午の節句とその翌日に行われたが現在は毎年7月末に「長崎ペーロン競漕大会」として長崎港内で開催されている。

東京商船大学は1875年（明治8年）11月1日に三菱商船学校として創立したが、初代校長中村六三郎の業績を刻んだ紀功碑が諏訪神社の脇の長崎公園の入口に建てられている。ピエールロティの文学碑もその近くにある。

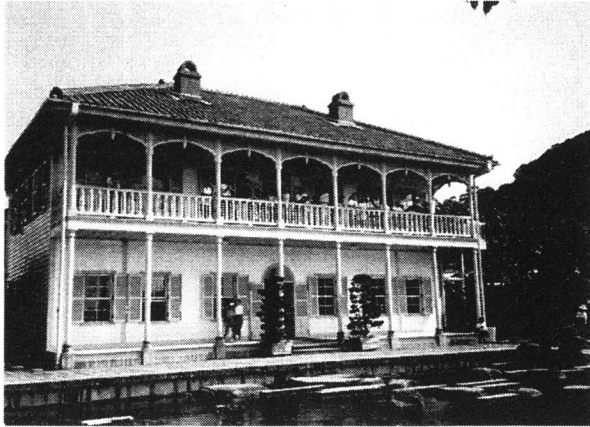


写真9 グラバー園（旧三菱第二ドックハウス）

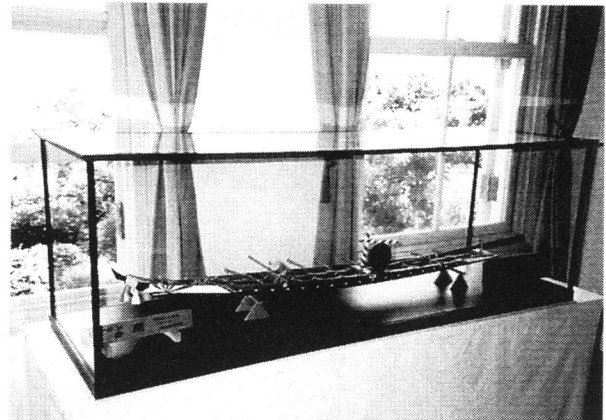


写真10 ペーロン模型

〈データ〉

名 称：グラバー園

英 名：Nagasaki Glover Garden

所 在 地：850 長崎市南山手町8-1

電 話：0958-22-8223

ファクシミリ：0958-22-3359

交 通：市内電車『大浦天主堂下』下車徒歩6分

所 属：長崎市

入園時間：8：00～18：00（3月1日～7月19日、11月1日～11月30日）

8：00～21：30（7月20日～10月31日）

8：30～17：00（12月1日～2月末日）

（入園は閉園20分前まで）

休 園 日：なし

入 園 料：大人600円、高校生300円、小中学生180円

写真撮影：可

出 版 物：グラバー園（無料パンフレット）

展 示：<旧三菱第二ドックハウス内>

○昭和43年当時の三菱長崎造船所模型（1968年）

○『玉丸』の航海灯、伝令器、汽笛

1930年（昭和5年）から1964年（昭和39年）まで市営交通船として長崎港内で活躍した。

○ポルトガル船模型

○オランダ船模型

○唐人船模型

○ペーロン模型（縮尺1/10）

網場ペーロンは寛永年に始まる長い伝統をもつ海の祭典である。実船の長さは45尺（長崎市網場町の林田初太郎氏出品）

○『クリスタルハーモニー（Crystal Harmony）』模型

全長約241m、垂線間長205.00m、型幅29.60m、型深さ（12番甲板まで）34.57m、計画型喫水7.50m、総トン数約49400トン、旅客定員960名、推進機関12000kW×2基、巡航速度22ノット、竣工1990年6月、三菱重工業長崎造船所建造。

- 『浅間丸』写真（1929年9月竣工）
- 戦艦『武蔵』絵画
- 三菱重工長崎造船所の歴史（写真にて）

貨客船『夕顔丸』206GT（明治20年5月竣工）、貨客船『筑後川丸』610GT（明治23年5月竣工）、貨客船『常陸丸』6172GT（明治31年8月竣工）、ヨット『初加勢』80GT（献上船）、明治35年11月竣工）、駆逐艦『水無月』381排水トン（明治39年12月竣工）、二等巡洋艦『矢矧』4950排水トン（明治45年7月竣工）、貨客船『香取丸』10513GT（大正2年9月竣工）、巡洋戦艦『霧島』27500排水トン（大正4年4月竣工）、戦艦『日向』31260排水トン（大正7年4月竣工）、一等巡洋艦『古鷹』8586排水トン（大正15年3月竣工）、貨客船『興安丸』7103GT（昭和12年1月竣工）、貨客船『崎戸丸』7126GT（昭和14年1月竣工）、戦艦『武蔵』69100排水トン（昭和17年8月竣工）、制式航空母艦『天城』20400排水トン（昭和19年8月竣工）、貨物船『ドナアリア』7356GT（昭和25年10月竣工）、タンカー『ビードル』45833DWT（昭和30年11月竣工）、甲型警備艦『はるかぜ』1700排水トン（昭和31年4月竣工）、タンカー『ネスサブリン』88494DWT（昭和36年1月竣工）、タンカー『ユニバースクウェイト』326848DWT（昭和43年9月竣工）、タンカー『鳥取丸』237383DWT（昭和47年9月竣工）、タンカー『ディビットパッカー』406592DWT（昭和52年4月竣工）LNG運搬船『播州丸』125000m³（昭和58年10月竣工）

（1964年10月、1991年8月26日、1993年7月23日現在）

(6) 長崎市出島資料館（長崎市、長崎県）

長崎の出島は1634年（寛永11年）にポルトガルの商人を住ませるために築造が始められた。1636年（寛永13年）には完成し、これによりポルトガル人の市内雑居が禁止された。長崎駅から市電に乗ると出島という駅があり、そこはまさに当時の出島の中だが、現在は出島の先の海まで埋立てられているので川原慶賀の描いた「長崎港俯瞰図」で見られるように扇形に海に突き出た島ではなくなっている。わずかに島と本土側の間の運河に沿った縁が扇形になり出島の名残りとどめている。

この島の中に出島資料館がつくられているが、この建物は1899年（明治32年）に外人居留地が廃止された後に1903年（明治36年）にF.リンガーによって建てられた出島における最後の外国人所有の建物で、長崎に在留する領事その他の外国人と日本人との親交の場として利用され、「内外クラブ」と称された。長崎市はこの建物を1968年（昭和43年）に買収し全面修復の後、1974年（昭和49年）4月に出島資料館として開館した。展示としては1階にオランダ関係資料、2階にポルトガル関係資料がある。この中に何隻かの模型船があるが、特定の船の模型としては「デリーフデ」の模型くらいである。この船が1600年に大分県の臼杵に漂着したことからオランダと日本の親密な交流が始まった。2000年は日蘭交流400年ということでいろいろなイベントが開催されている。

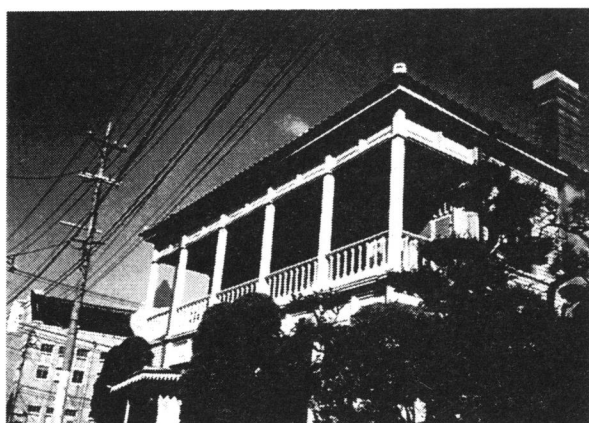


写真11 長崎市出島資料館

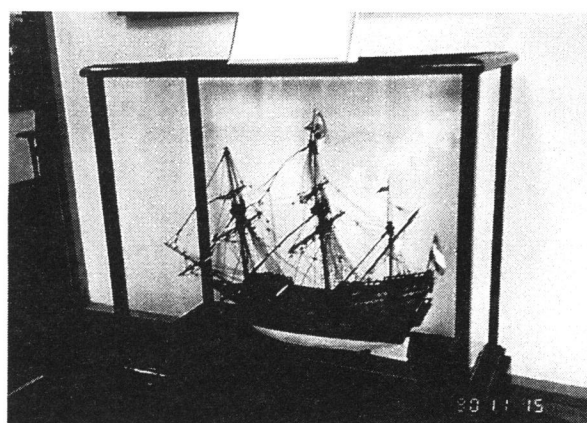


写真12 リーフデ模型

〈データ〉

名 称：長崎市出島資料館

所 在 地：850 長崎市出島町9-22

電 話：0958-21-5117

交 通：市内電車「出島」または「築町」下車

所 属：長崎市

沿 革：1974年（昭和49年）4月開館

開館時間：9：00～17：00

休 館 日：月曜日、12月29日～1月4日

入 園 料：無料

写真撮影：可

出 版 物：（無料パンフレット）

展 示：○デリーフデ模型

デリーフデ（旧エラスムス）は日本に最初に来たオランダ船で豊後の臼杵に漂着した。船は浦賀に回航され解体された。

○ポルトガル船模型

○御朱印船模型（市立博物館蔵）

○オランダ船模型（市立博物館蔵）

○唐船模型（市立博物館蔵）

○ポルトガル船模型（本館蔵）

○ポルトガル船旗

（1990年（平成2年）11月15日現在）

3. 文献調査結果

文献⁽¹⁹⁾により、船舶関係資料をもつと思われる博物館について以下に調査した。その結果を県毎に示す。またこの中で◎印は現地調査した施設でさらに●は第2章に取り上げた6館である。

〈福岡県〉

○芦屋町歴史民俗資料館

英 名：Ashiya-cho Historical Folk Museum

住 所：80701 遠賀郡芦屋町中ノ浜4-4中央公民館3階

電 話：093-222-1681

F A X：093-223-3885

交 通：国鉄鹿児島本線折尾駅より西鉄／北九州市営バス粟屋行約30分、芦屋中学校下車徒歩5分、役場前下車徒歩5分

所 属：芦屋町

沿 革：1978年（昭和53年）芦屋中央公民館建設、開館

開館時間：9時30分～18時

休 館 日：月曜日、第4木曜日、祝日、12月29日～1月3日

入館料：無料

展 示：ひらた船

○亀陽文庫能古博物館（◎、●）

英 名：Noko Museum Garden

住 所：819 福岡市西区能古522-2

電 話：092-883-2881

F A X：092-883-2881

交 通：国鉄鹿児島本線博多駅よりバス姪の浜渡船場下車、または地下鉄姪の浜下車歩20分、姪の浜渡船場よりフェリー能古行能古渡船場下車徒歩5分

所 属：財団法人亀陽文庫

沿 革：1989年（平成元年）7月20日当地にて移転開館

開館時間：9時30分～17時

休 館 日：月曜日（祝日のときは翌日）、12月29日～1月2日

入 館 料：大人300円、中高生200円

展 示：能古廻船資料

○中間市歴史民俗資料館（◎、●）

英 名：——

住 所：809 中間市大字中間5876-1

電 話：093-245-4665

交 通：国鉄筑豊本線中間駅下車徒歩10分

所 属：中間市

開館時間：10時～18時（入館は17時30分まで）

休 館 日：月曜日、祝日（月曜日のときは翌日）、12月29日～1月3日

入 館 料：無料

写真撮影：可

展 示：○川滯模型

○塗り取り

○堀川通船料入れ、船用おひつ、船金庫、船箆笥

○唐戸水門模型

○直方市石炭記念館（◎、●）

英 名：Knoogata Municipal Coal Memorial Museum

住 所：8220016 直方市大字直方692-4

電 話：09492-5-2243

F A X：09492-5-2238

交 通：国鉄筑豊本線直方駅下車徒歩10分

所 属：直方市

沿 革：1971年（昭和46年）7月20日開館

開館時間：9時～17時（入館は16時30分まで）

休館日：月曜日、祝日、第3日曜日、12月29日～1月3日

入館料：大人80円、中高生50円、小学生30円

展示：川鯉模型

○志摩町歴史資料館

英名：The Shima Historical Museum

住所：8191312 糸島郡志摩町大字初1

電話：092-327-4422

FAX：092-327-4422

交通：国鉄筑肥線肥筑前原駅より昭和バス野北線、初バス停下車徒歩5分

所属：志摩町

沿革：1996年（平成8年）4月1日開館

開館時間：9時～17時（入館は16時30分まで）

休館日：

入館料：大人210円、小中高生100円

展示：漁業・交易資料

<佐賀県>

○佐賀県立博物館

英名：Saga Prefectural Museum

住所：840 佐賀市城内1-15-23

電話：0952-24-3947

FAX：0952-45-7006

交通：国鉄長崎本線佐賀駅より市営バス市内右回りまたは左回りにて博物館前下車

所属：佐賀県

沿革：1970年（昭和45年）10月14日開館

開館時間：10時～18時（入館は17時30分まで）

休館日：月曜日、祝日の翌日、12月28日～1月4日

入館料：大人200円、大学生150円

展示：有明海漁撈具

○太良町歴史民俗資料館

英名：Tara-cho Historical Folk Museum

住所：84916 藤津郡太良町大字多良1-11

電話：09546-7-2139

交通：国鉄長崎本線多良駅下車徒歩10分

所属：太良町

沿革：1982年（昭和57年）10月1日開館

開館時間：9時～16時

休館日：月曜日、第一土曜日をもとに土日を交互休館、祝日、12月29日～1月3日

入館料：無料

展 示：有明海漁撈用具

〈長崎県〉

○壱岐郷土館

英 名：Iki Museum
住 所：81151 壱岐郡郷ノ浦町本村触445
電 話：09204-7-4141
F A X：09204-7-4141
交 通：九州郵船壱岐郷ノ浦下船徒歩15分
所 属：郷ノ浦町
沿 革：1958年（昭和33年）8月開館
開館時間：9時～17時
休 館 日：水曜日、12月28日～1月3日
入 館 料：大人200円、小中学生100円
展 示：捕鯨、海士の用具

○大瀬戸町歴史民俗資料館

英 名：Oseto-machi Folk Historical Museum
住 所：85723 西彼杵郡大瀬戸町瀬戸西浜郷61-1
電 話：0959-22-2887
交 通：国鉄長崎本線長崎駅より長崎バス瀬戸行西浜下車
所 属：大瀬戸町
沿 革：1982年（昭和57年）11月5日開館
開館時間：8時30分～17時
休 館 日：月曜日、金曜日、12月29日～1月3日
入 館 料：無料
展 示：家船、魚撈関係資料

○海上自衛隊佐世保史料館

英 名：Sasebo Maritime Defence Museum
住 所：8570058 佐世保市上町114-2
電 話：0956-22-3040
交 通：国鉄佐世保駅から市営、西肥バスにて元町バス停下車徒歩2分
所 属：国立
沿 革：1968年（昭和43年）4月開館
開館時間：9時30分～17時（入館は16時30分まで）
休 館 日：第3木曜日、12月28日～1月4日
入 館 料：無料
展 示：艦艇模型

○五島観光歴史資料館

英 名：Goto Sightseeing Folk Material Hall

住 所：福江市福江町2-1
電 話：0959-74-2300
F A X：0958-72-6900
交 通：福江港から徒歩3分
所 属：福江市
沿 革：1989年（平成元年）11月2日開館
開館時間：9時～17時、8時30分～18時（7月～8月、入館は17時30分まで）
休 館 日：月曜日（祝日のときは翌日）、12月28日～1月3日
入 館 料：大人200円、高校大学生150円、小中学生100円
展 示：遣唐使と倭寇資料

○佐世保海上防衛史料館

英 名：Sasebo Maritime Defence Museum
住 所：857 佐世保市平瀬町海上自衛隊佐世保補給所内
電 話：0956-23-7111
交 通：佐世保駅から鹿子前方面行市営バス防衛史料館前下車徒歩3分
所 属：国立
沿 革：1968年（昭和43年）4月開館
開館時間：9時～16時
休 館 日：日曜日、祝日、第2第4土曜日、年末年始、特命日
入 館 料：無料
展 示：水上特攻艇震洋の実物模型

○長崎オランダ村海事博物館（◎、●）

名 称：長崎オランダ村海事博物館
英 名：Nagasaki Holland Village Maritime Museum
所 在 地：85133 長崎県西彼杵郡西彼町
電 話：0959-27-0080
交 通：長崎駅よりオランダ村行バス約1時間
早岐駅よりオランダ村行バス約30分
沿 革：1983年開館
開館時間：9時～19時（12月～3月の平日は17時まで、7月20日～9月は20時まで）
休 館 日：無休
入 館 料：大人2570円、小人1030円（長崎オランダ村入場料として）
写真撮影：可
出 版 物：○長崎オランダ村ガイドブック
○オランダ村とプリンス・ウィレム
展 示：オランダ船の模型

○長崎市グラバー園（◎、●）

英 名：Nagasaki Glover Garden

住 所：8500931 長崎市南山手町8-1

電 話：0958-22-8223

F A X：0958-22-3359

交 通：市電『大浦天主堂下』下車、徒歩6分

所 属：長崎市

沿 革：-

開館時間：8:00~18:00、8:00~21:30（7月20日~10月31日）、8:30~17:00（12月~2月）

休 館 日：無休

入 館 料：大人600円、高校生300円、小中学生180円

写真撮影：可

展 示：<旧三菱第二ドックハウス内>

○昭和43年当時の三菱長崎造船所模型（1968年）

○『玉丸』の航海灯、伝令器、汽笛

1930年（昭和5年）から1964年（昭和39年）まで市営交通船として長崎港内で活躍した。

○ポルトガル船模型

○オランダ船模型

○唐人船模型

○ペーロン模型（縮尺1/10）

網場ペーロンは寛永年に始まる長い伝統をもつ海の祭典である。実船の長さは45尺（長崎市網場町の林田初太郎氏出品）

○『クリスタルハーモニー（Crystal Harmony）』模型

全長約241m、垂線間長205.00m、型幅29.60m、型深さ（12番甲板まで）34.57m、計画型喫水7.50m、総トン数約49400トン、旅客定員960名、推進機関12000kw×2基、巡航速力22ノット、竣工1990年6月、三菱重工業長崎造船所建造。

○『浅間丸』写真（1929年9月竣工）

○戦艦『武蔵』絵画

○三菱重工長崎造船所の歴史（写真にて）

貨客船『夕顔丸』206GT（明治20年5月竣工）、貨客船『筑後川丸』610GT（明治23年5月竣工）、貨客船『常陸丸』6172GT（明治31年8月竣工）、ヨット『初加勢』80GT（献上船）、明治35年11月竣工）、駆逐艦『水無月』381排水トン（明治39年12月竣工）、二等巡洋艦『矢矧』4950排水トン（明治45年7月竣工）、貨客船『香取丸』10513GT（大正2年9月竣工）、巡洋戦艦『霧島』27500排水トン（大正4年4月竣工）、戦艦『日向』31260排水トン（大正7年4月竣工）、一等巡洋艦『古鷹』8586排水トン（大正15年3月竣工）、貨客船『興安丸』7103GT（昭和12年1月竣工）、貨客船『崎戸丸』7126GT（昭和14年1月竣工）、戦艦『武蔵』69100排水トン（昭和17年8月竣工）、制式航空母艦『天城』20400排水トン（昭和19年8月竣工）、貨物船『ドナアリシア』7356GT（昭和25年10月竣工）、タンカー『ビードル』45833DWT（昭和30年11月竣工）、甲型警備艦『はるかぜ』1700排水トン（昭和31年4月竣工）、タンカー『ネスサブリン』88494DWT（昭和36年1月竣工）、タンカー『ユニバースクウェイト』326848DWT（昭和43年9月竣工）、タンカー『鳥取丸』237383DWT（昭和47年9月竣工）、タンカー『ディビットパッカー』406592DWT（昭和52年4月竣工）LNG運搬船『播州丸』125000m³（昭和58年10月竣工）

（1964年10月、1991年8月26日、1993年7月23日現在）

○長崎市出島資料館 (◎、●)

英 名 :

住 所 : 850 長崎市出島町9 - 22

電 話 : 0958 - 21 - 5117

F A X :

交 通 : 市内電車「出島」または「築町」下車

所 属 : 長崎市

沿 革 : 1974年(昭和49年) 4月開館

開館時間 : 9 : 00~17 : 00

休 館 日 : 月曜日、12月29日~1月4日

入 館 料 : 無料

写真撮影 : 可

出 版 物 : 無料パンフレット

展 示 : デリーフデ模型ほか

○長崎市立博物館 (◎)

英 名 :

住 所 : 8528117 長崎市平野町7 - 8

電 話 : 095 - 845 - 8188

交 通 : 市電にて

所 属 : 長崎市

沿 革 :

開館時間 : 9 : 00~17 : 00

休 館 日 : 月曜日、年末年始

入 館 料 : 無料

展 示 : ○第二水ノ浦丸舵輪(市営交通船、長崎市は1924年(大正13年) 4月に長崎交通船株式会社から営業権を譲渡され昭和41年まで大波止~水ノ浦、元船町~志賀などに交通船を運航した。)

○末次船絵馬(長崎市立歴史民俗資料館に寄託)

○南蛮船彫刻木額

(1990年11月15日現在)

○長崎市歴史民俗資料館本館 (◎)

英 名 : Nagasaki City Museum of History and Folklore

住 所 : 850 長崎市出島町9 - 15

電 話 : 0958 - 24 - 8958

F A X :

交 通 : 長崎駅前から市電正覚寺下行で築町下車徒歩3分、または長崎駅南口バス停より20、30、40系統にて浜町中央橋下車

所 属 : 長崎市

沿 革 : 1978年(昭和53年) 6月旧香港上海銀行長崎支店にて開館、1989年(昭和64年) 1月5日旧出島神学校に移転し開館

開館時間 : 9時~17時

休館日：月曜日、12月29日～1月4日

入館料：無料

展示：○ペーロン模型

江戸時代に端午の節句とその翌日に行われたボートレースに似た和船の競漕。現在は毎年7月26日頃に「長崎ペーロン競漕大会」が長崎港内で開かれる。

○サンパン模型

長崎港内の渡し船

(1990年11月15日現在)

○長崎市歴史民俗資料館分館 (◎)

英名：Nagasaki City Museum of History and Folklore

住所：850 長崎市松が枝町4-33

電話：0958-25-2798

F A X：

交通：長崎駅前から市電正覚寺下行乗車、築町で石橋行に乘換え大浦天主堂下で下車

所属：長崎市

沿革：

開館時間：9時～17時

休館日：月曜日、12月29日～1月4日

入館料：無料

展示：○長崎丸、上海丸写真

○「白山丸」写真（大正時代の税関監視艇）

○「鉄山丸」写真（1927年（昭和2年）5月）

(1990年11月15日現在)

○松浦史料博物館 (◎)

英名：Matsuura Historical Museum

住所：85951 平戸市鏡川町12

電話：0950-22-2236

F A X：0950-22-2281

交通：国鉄佐世保駅から平戸行西肥バス終点平戸棧橋バスターミナル下車徒歩5分

所属：財団法人松浦史料博物館

沿革：1955年（昭和30年）財団として発足

開館時間：8時～17時30分（12月は16時30分まで）

休館日：12月29日～1月1日

入館料：大人300円、高校生200円、小中学生100円

写真撮影：不可

展示：○オランダ船模型

○蘭英貿易資料

○オランダ船船首像

(1983年（昭和58年）3月2日現在)

〈熊本県〉

○大矢野町郷土資料館

英 名：
住 所：86936 天草郡大矢野町大字中11583-1
電 話：09645-6-1111（町役場）
交 通：三角線三角駅より産交バス大矢野警察署前下車
所 属：大矢野町
沿 革：
開館時間：
休 館 日：年末年始
入 館 料：有料
展 示：漁具を中心とする民俗資料

○玉名市立歴史博物館こころピア

英 名：Tamana City Historical Museum Kokoropia
住 所：865 玉名市岩崎117
電 話：0968-74-3989
交 通：国鉄玉名駅の産交バスターミナルより熊本行岩崎橋下車徒歩5分、玉名駅より徒歩20分
所 属：玉名市
沿 革：1992年（平成6年）5月22日開館
開館時間：9時～17時（入館は16時30分まで）
休 館 日：月曜日（祝日の時は翌日）、祝日の翌日（日曜日のきは開館）、12月28日～1月4日
入 館 料：大人300円、高校大学生200円、小中学瀬100円
展 示：唐船模型、千石船模型

〈大分県〉

○杵築市立民俗資料館

英 名：
住 所：873 杵築市大字杵築1-1
電 話：09786-2-4362
交 通：国鉄日豊本線杵築駅よた杵築市駅行バス15分
所 属：杵築市
沿 革：
開館時間：9時～17時
休 館 日：土曜日午後、日曜日、祝日、年末年始
入 館 料：有料
展 示：漁業に関する民俗資料

〈宮崎県〉

〈鹿児島県〉

○伊仙町歴史民俗資料館

英 名：Isen-cho Historical Folk Museum
住 所：8918201 大島郡伊仙町大字伊仙83-4
電 話：0997-86-4183
交 通：徳之島亀徳港下船、亀津港よりバス魚津經由伊仙下車徒歩4分
所 属：伊仙町
沿 革：1980年（昭和55年）4月1日開館
開館時間：9時～16時30分
休 館 日：月曜日、祝日の翌日
入 館 料：無料
展 示：板付船、タケノイカダブネ

○鹿児島県立博物館（◎）

英 名：Kagoshima Prefectural Museum
住 所：892 鹿児島市城山町1-1
電 話：099-223-6050
F A X：099-223-6080
交 通：国鉄鹿児島本線西鹿児島駅より市電朝日通り下車徒歩5分
所 属：鹿児島県
沿 革：1953年（昭和28年）3月開館
開館時間：9時～17時
休 館 日：月曜日、祝日、12月28日～31日、1月2日～4日、整理点検日
入 館 料：大人200円、小中学生110円
展 示：丸木船
(1986年（昭和61年）11月21日（金）現在)

○鹿児島県歴史資料センター黎明館（◎）

英 名：Kagoshima Prefectural Museum of Culture-Reimeikan
住 所：8920853 鹿児島市城山町5-1
電 話：099-222-5100
F A X：099-222-5143
交 通：国鉄西鹿児島または鹿児島駅より市電、バスにて市役所前下車徒歩5分
所 属：鹿児島県
沿 革：1983年（昭和85年）10月21日開館
開館時間：9時～17時（入場は16時30分まで）
休 館 日：月曜日（祝日のときは翌日）、12月31日～1月2日、毎年25日（土、日曜日のときは開館）
入 館 料：大人260円、高校大学生150円、小中学生100円
展 示：○スブネ（宇検村）
イジュをくり抜いた舟で湾内の交通や沿岸漁撈に用いた。長さ7.15m、幅0.58m、深さ0.50m

○マルキブネ（西之表市）

ヤクタネゴヨウマツを用いて伝統的な技術で製作した。長さ6.27m、幅1.27m、深さ0.70m

○サバニ（1/10模型、与論町）

（1986年（昭和61年）11月21日（金）現在）

○鹿児島市維新ふるさと館

英 名：Museum of the Meiji Restoration

住 所：8920846 鹿児島市加治屋町23-1

電 話：099-239-7700

F A X：099-239-7800

交 通：国鉄鹿児島本線西鹿児島駅より徒歩5分

所 属：鹿児島市

沿 革：1994年（平成6年）4月29日開館

開館時間：9時～17時（入館は16時30分まで）

休 館 日：無休

入 館 料：大人300円、小中学生150円

展 示：日本初の洋式帆船「昇平丸」模型

○尚古集成館（◎）

英 名：Shoko Shuselkan Historical museum

住 所：892 鹿児島市吉野町磯9698-1

電 話：099-247-1511

交 通：国鉄鹿児島本線鹿児島駅よりバス20分、磯庭園前下車徒歩5分

所 属：会社

沿 革：1923年（大正12年）開館

開館時間：8時30分～17時30分（11月1日～3月15日は17時20分まで）

休 館 日：無休

入 館 料：大人800円、小人400円

展 示：○日本最初の洋式軍艦「昇平丸」模型

○日本最初の汽船「雲行丸」資料

○川内市歴史資料館

英 名：Sendai History Museum

住 所：895 川内市中郷2-2

電 話：0996-20-2344

交 通：国鉄川内駅より徒歩20分

所 属：川内市

沿 革：1984年（昭和59年）2月11日開館

開館時間：9時～17時

休 館 日：月曜日（祝日のときは翌日）、5月5日、11月3日、12月29日～1月3日、第4土曜日

入 館 料：大人250円、小中高生100円

展 示：樗木（おてき）家旧蔵造船関係資料

○十島村歴史民俗資料館

英 名：Toshima - mura Folk Historical Museum
住 所：8915201 鹿児島郡十島村大字中之島150 - 241
電 話：09912 - 2 - 2338
交 通：鹿児島北埠頭より村営定期船「としま」にて中之島下船
所 属：十島村
沿 革：1993年（平成5年）10月22日開館
開館時間：9時～17時
休 館 日：月曜日（祝日のときは翌日）、12月29日～1月3日
入 館 料：大人210円、小中学生100円
展 示：村営船の変遷、年貢船、丸木舟

○中種子町立歴史民俗資料館

英 名：Nakadane - cho Folk Historical Museum
住 所：89136 熊毛郡中種子町野間5173 - 2
電 話：09972 - 7 - 2233
F A X：09972 - 7 - 3636
交 通：種子島西之表市からバス中種子町野間旭町徒歩2分、種子島空港より徒歩15分
所 属：中種子町
沿 革：1978年（昭和53年）開館
開館時間：9時～16時30分
休 館 日：年末年始、臨時休館日
入 館 料：大人154円、高校生82円、小中学生51円
展 示：ヤクタネゴヨ（松）を材料にした丸木舟

○南種子町郷土館

英 名：Minamitane Local Museum
住 所：89137 熊毛郡南種子町中之下1937 - 4
電 話：09972 - 6 - 1031
交 通：種子島交通上中営業所バス停車、南へ徒歩30分
所 属：南種子町
沿 革：1986年（昭和61年）3月5日開館
開館時間：9時～17時
休 館 日：月曜日（休日のときは翌日）、12月28日～1月4日
入 館 料：無料
展 示：西南諸島で現役最後の丸木舟（割舟）

○西之表市立種子島博物館

英 名：

住 所：89131 西之表市西之表761
電 話：09972-2-1111（内線263）
交 通：種子島西之表港下船、徒歩15分
所 属：西之表市
沿 革：
開館時間：8時30分～17時
休 館 日：土曜日午後（9月～6月）、日曜日（7、8月は開館）、年末年始
入 館 料：有料
展 示：漁具

○坊津町歴史民俗資料館

英 名：
住 所：89801 川辺郡坊津町坊
電 話：09936-7-0171
交 通：指宿枕崎線枕崎駅より鹿児島交通バス坊泊行25分、坊役場支所前下車
所 属：坊津町
沿 革：
開館時間：9時分～16時30分
休 館 日：12月28日～1月4日
入 館 料：有料
展 示：漁具を中心とする民俗資料、海外貿易の門戸としての歴史資料

〈沖縄県〉

○石垣市立八重山博物館

英 名：
住 所：907 石垣市登野城4
電 話：09808-2-4712
F A X：
交 通：
所 属：石垣市
沿 革：
開館時間：9時～16時30分
休 館 日：月曜日、祝祭日、年末年始
入 館 料：大人100円
展 示：○アツカン（西表で使われていた丸木舟、全長4.35m、幅0.50m、高さ0.3m、長さ1.24mの櫂がついている）

○沖縄県立海洋博記念沖縄館

英 名：Okinawa Prefectural EXPO Memorial Okinawa Pavilion
住 所：90503 国頭郡本部町石川544国営沖縄記念公園内
電 話：0980-48-2966

F A X : 0980 - 48 - 3553

交 通 : 那覇より名護西線20番、名護バスセンターにて本部行備瀬線70番乗換え、記念公園前下車

所 属 : 沖縄県

沿 革 : 1976年（昭和51年）8月1日開館

開館時間 : 9時30分～17時30分（3月1日～7月20日、9月～11月）

9時30分～18時30分（7月21日～8月31日）

9時30分～17時（12月～2月）

休 館 日 : 木曜日（休日のときは翌日）

入 館 料 : 大人150円、小人50円

展 示 : 漁具

○沖縄県立博物館

英 名 :

住 所 : 903 那覇市首里大中町1-1

電 話 : 0988 - 84 - 2243

F A X :

交 通 :

所 属 : 沖縄県

沿 革 :

開館時間 : 9時～16時30分

休 館 日 : 月曜日、祝日、12月28日～1月4日

入 館 料 : 有料

展 示 : ○サバニ（くり舟）

○国営沖縄記念公園海洋文化館

英 名 : Okinawa Commemorative National Government Park Oceanic Culture Museum

住 所 : 90503 国頭郡本部町石川424国営沖縄記念公園内

電 話 : 0980 - 48 - 2741

F A X : 0980 - 48 - 3339

交 通 : 那覇より名護西線20番、名護バスセンターにて本部行備瀬線70番乗換え、記念公園前下車

所 属 : 国立

沿 革 : 1976年（昭和51年）8月1日開館

開館時間 : 9時30分～17時30分（3月1日～7月19日、9月～11月）

9時30分～18時30分（7月20日～8月31日）

9時30分～17時（12月～2月）

休 館 日 : 木曜日（休日のときは翌日）

入 館 料 : 大人170円、小人50円

展 示 : 漁業用具

4. 結 言

本報告では九州・沖縄地方における6施設についての現地調査と36施設についての文献調査結果を示した。今までの調査結果を日本全体について県別にみると表1のようになる。表1は日本の博物館について実際に訪問して調べた現地調査結果と、文献などにより船舶に関する資料が含まれているのではないかと考えられる博物館の数を各都道府県毎にまとめたものである。また船舶に関する資料が含まれているのではないかとと思われる博物館に対してはこれまでに実際に訪問し現地調査を行った博物館の割合を訪問率として同じく表1に示した。この表から現地調査結果及び文献調査結果による博物館数は関東地方が圧倒的に多いが、これは著者の生活圏に対応した情報量の結果で、この結果だけから他の地方に船の資料をもつ博物館が少ないとは必ずしもいえない。造船学や航海学に関する学会活動の一環として比較的よく訪問する神戸や長崎においてそれぞれの調査結果の博物館数が多いのも調査する側の行動形態によって結果の数に影響を与えることが予想されるからである。この表における集計結果では日本全体で訪問率が40%弱にとどまり、まだまだ訪問して現地調査すべき博物館は多数存在する。

今後も、少しずつではあるがさらに調査を増やしていきたい。

表1 海事関係博物館調査結果

県名	現地調査結果	文献調査結果	訪問率
北海道	10	33	0.303
東北地方	6	43	0.140
青森県	2	13	0.154
岩手県	2	7	0.286
宮城県	0	5	0
秋田県	2	10	0.2
山形県	0	5	0
福島県	0	3	0
関東地方	38	54	0.704
茨城県	3	6	0.5
栃木県	1	2	0.5
群馬県	0	0	0
埼玉県	0	2	0
千葉県	12	16	0.75
東京都	15	17	0.882
神奈川県	7	11	0.636
中部地方	10	46	0.227
静岡県	4	9	0.444
愛知県	1	3	0.333
山梨県	0	0	0
長野県	1	2	0.5
岐阜県	0	2	0
新潟県	3	11	0.333
富山県	1	6	0.2
石川県	0	6	0
福井県	0	8	0
近畿地方	10	27	0.375
三重県	2	3	0.333
奈良県	0	0	0
和歌山県	0	2	0
滋賀県	0	2	0
京都府	0	5	0
大阪府	2	5	0.4
兵庫県	6	10	0.667
中国地方	4	23	0.190
鳥取県	0	1	0
島根県	0	1	0
岡山県	1	3	0.5
広島県	2	11	0.182
山口県	1	7	0.167
四国地方	3	7	0.6
香川県	1	3	0.5
愛媛県	1	2	0.5
徳島県	0	1	0
高知県	1	1	1.0
九州地方	13	27	0.481
福岡県	3	5	0.6
佐賀県	0	2	0
長崎県	7	12	0.583
熊本県	0	2	0
大分県	0	1	0
宮崎県	0	0	0
鹿児島県	3	11	0.273
沖縄県	0	4	0

参考文献

- (1) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その1）－西ドイツの博物館－、東京商船大学研究報告（人文科学）第40号、pp.83-99（1989年12月）
- (2) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その2）－西ドイツ（続）・オランダ・ベルギー－、東京商船大学研究報告（人文科学）第41号、pp.89-114（1990年12月）
- (3) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その3）－ノルウェー・スウェーデン・デンマーク－、東京商船大学研究報告（人文科学）第42号、pp.73-91（1991年12月）
- (4) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その4）－イギリス・フランス・イタリア・スロベニア－、東京商船大学研究報告（人文科学）第43号、pp.87-106（1992年12月）
- (5) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その5）－アメリカ－、東京商船大学研究報告（人文科学）第44号、pp.41-67（1993年12月）
- (6) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その6）－中国－、東京商船大学研究報告（人文科学）第45号、pp.13-19（1995年3月）
- (7) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その7）－オーストラリア・ニュージーランド－、東京商船大学研究報告（人文科学）第46号、pp.1-26（1996年2月）
- (8) 庄司邦昭：ヨーロッパ船の博物館ガイド、大空社（1998年6月）
- (9) 庄司邦昭：日本の海事工学に関する博物館について（その1）－北海道－、東京商船大学研究報告（人文科学）第47号、pp.15-31（1997年2月）
- (10) 庄司邦昭：日本の海事工学に関する博物館について（その2）－東北地方－、東京商船大学研究報告（人文科学）第48号、pp.41-60（1998年1月）
- (11) 庄司邦昭：日本の海事工学に関する博物館について（その3）－関東地方－、東京商船大学研究報告（人文科学）第49号、pp.27-70（1999年1月）
- (12) 庄司邦昭：日本の海事工学に関する博物館について（その4）－中部地方－、東京商船大学研究報告（人文科学）第50号、pp.75-102（1999年12月）
- (13) 庄司邦昭：日本の海事工学に関する博物館について（その5）－近畿、中国、四国地方－、東京商船大学研究報告（人文科学）第51号、pp.39-73（2000年12月）
- (14) 考古学ライブラリー編集部編：博物館資料館案内Ⅰ－考古・歴史・民俗－、ニューサイエンス社（1984年1月）
- (15) 考古学ライブラリー編集部編：博物館資料館案内Ⅱ－教育委員会・埋文センター・研究会一覧－、ニューサイエンス社（1984年1月）
- (16) 全国美術館会議編：全国美術館ガイド、美術出版社（1992年1月10日）
- (17) 樋口秀雄・加藤有次監修：父と子の博物館、富士書店（1976年7月）
- (18) 加藤有次監修：ユニーク博物館、毎日新聞社（1985年5月）
- (19) 日本博物館協会編集：全国博物館総覧、第4巻、ぎょうせい（1995年6月）